

A-2

沖縄島南部の具志頭海岸における完新世離水サンゴ礁の発達
過程と完新世海面変動

河名 俊男* (琉球大学教育学部) ・菅 浩伸 (岡山大学教育学部)

沖縄島南部の具志頭海岸には、隆起運動に伴って完新世離水サンゴ礁が発達している。当地域のサンゴ礁は、陸側から沖側に合計4本の掘削が実施され (kawana *et al.*, 1998)、1999年1月には、さらに沖側で2本の掘削が実施された。以上の6本の掘削および当地域の海岸地形から以下の諸点があきらかになった。当地域の完新世サンゴ礁は、約7700年前頃に (年代は未補正の¹⁴C年代値)、第三紀の泥岩およびそれを薄く覆う第四紀の琉球石灰岩の礫層から構成される水深8~18mの平坦面を基盤として、上方に堆積を開始した。第1期のサンゴ礁は、約7700年前からの海面上昇に伴って形成され、約6000年前頃までに最も陸側に形成された。その後約4000年前頃までに、第1期のサンゴ礁の前面に第2期のサンゴ礁が形成された。約2500年前以降、第3期のサンゴ礁が、第2期のサンゴ礁のさらに前面に形成されている。以上3期にわたるサンゴ礁の表層の形成は、当地域の海岸に形成されている3段のノッチと対応し、海面の相対的な安定期に形成されたと考えられる。